

南部地域における公共交通の取り組み（南横山校区）

今年度の取り組みを踏まえて、次年度以降も引き続き検討していきます。

公共交通の現況調査①

① 路線バス・路線維持運行バス乗降調査(8/22~25)

- 路線バス「父鬼線」(父鬼⇄榎尾山口、8便/日)
1便あたりの利用人員 [平日] 1.4人 [土休] 1.6人
⇒和泉中央駅方面への利用が大半で校区内の移動は少ないが、「若樫口」(買物先:葉菜の森)の乗降利用がやや目立つ
- 路線維持運行バス「父鬼ルート」(父鬼⇄榎尾中学校前、10便/日)
1便あたりの利用人員 [平日] 1.2人 [土休] 0.5人
⇒学校の長期休暇期間であっても利用人員に大きな差はなかった
⇒主に和泉中央駅方面から「榎尾中学校前/榎尾山口」の乗継ダイヤに合わせた利用傾向

交通関連事業費の推移

路線バス「父鬼線」経年推移

	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
経常収益(円)	710,636	731,029	442,889	675,024	1,104,579
市補助金(円)	2,600,019	2,628,675	2,700,944	2,787,204	2,584,801
平均乗車密度	1	0.9	0.4	0.7	1.5

路線維持運行バス「父鬼ルート」経年推移

	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
運送経費(円)	11,481,542	11,613,968	11,292,790	11,045,314	1,156,768
運送収入(円)	811,026	752,758	579,530	561,590	659,756
市負担金(円)	10,670,516	10,861,210	10,713,260	10,483,724	10,497,012
輸送人員(人)	5,651	5,245	3,848	3,913	4,597
1人あたり費用(円)	2,032	2,214	2,935	2,823	2,427
1便あたり人員(人)	1.29	1.43	1.05	1.07	1.26

遠距離通学バス利用状況

遠距離通学生徒通学費補助

年間定期購入状況	父鬼町	大野町
H29年度	11	3
H30年度	10	3
R元年度	7	3

(単位:人)



遠距離通学生徒通学費補助金推移

年間定期購入状況	父鬼町	大野町	合計
H29年度	914,760	213,840	1,128,600
H30年度	831,600	213,840	1,045,440
R元年度(見込み)	582,120	213,840	795,960

(単位:円)

※ H28年度までは扶助費で半額支給
※ H29年度より補助金として全額支給

公共交通の現況調査②

② 公共交通に関するアンケート調査(8/1~25)

配布数 849 枚
回収数 438 枚
回収率 51.5%

【調査の目的】

地域住民の交通に関する移動実態やニーズを把握し、日常生活の移動や頻度、公共交通に対する意識調査を行い、南部地域独自の課題を把握する

【対象】

- 回答者の半数以上が60~70代(男女比の偏りはみられない)
- 家族構成で、「親と子」が『父鬼町』『大野町』(約5割)、「夫婦」が『側川』(約5割)
- 自動車の保有台数は、「2台以上」が『父鬼町』『大野町』(約8割)

【移動】

- 食料品の買物は、マイカー・家族送迎(9割以上)、頻度は「月4日以上/週に1~2回」が多い
- 衣料品の買物、通院、金融機関では、頻度は「月1回」が最も多い
- 現在の外出状況で、「一人で十分できる」が『父鬼町』『大野町』(7割)、『側川』(4割)
- 将来(10年後)の不安で、「一人で十分できる」が『父鬼町』『側川』(2割)、『大野町』(4割)

【バス利用】

- 1年以内に路線バスを利用していない(3町会ともに8割以上)
- バス停まで徒歩5分以下の圏内でバス利用傾向あり
- 1年以内に路線維持運行バスを利用していない(約9割)

【タクシー利用】

- 利用の頻度では、利用しない(3町会ともに8割以上)
- 利用の理由では、「公共交通がない/自分時間で行動できる」が大半

【自動車利用】

- 利用の頻度(本人)では、「週5日以上」が『父鬼町』『大野町』(6割)
- 利用の目的(本人)の大半は買物、通勤 ※(家族)は買物が主
- 利用の理由では、「短時間で移動できる/自分時間で行動できる」が大半

公共交通の現況調査③

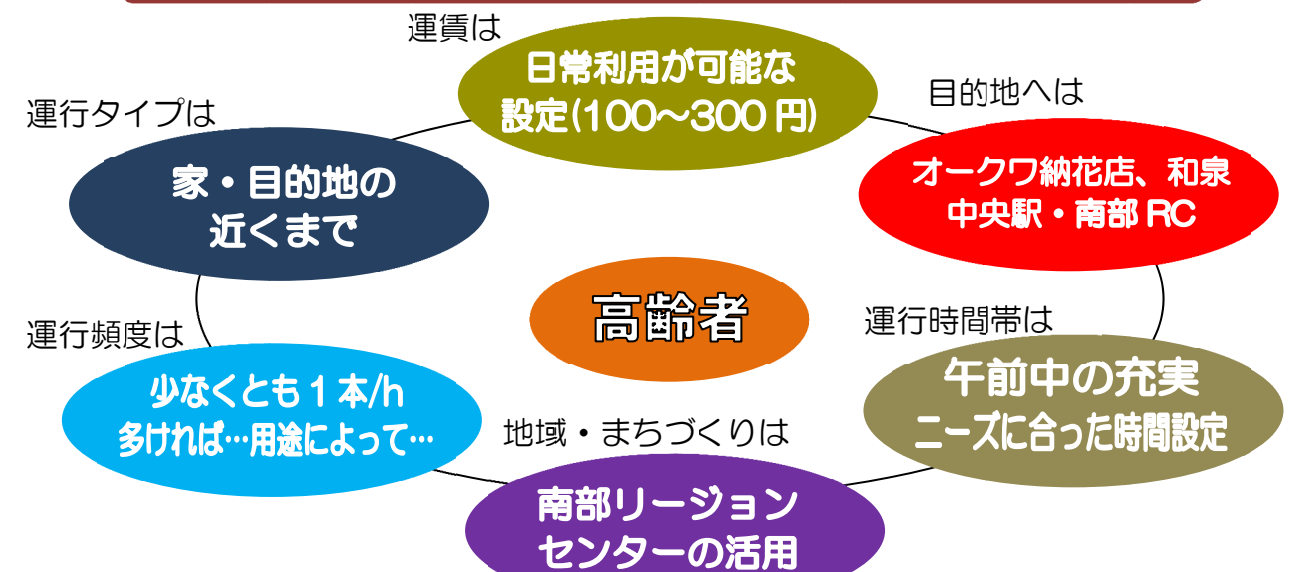
③ 地域のくらしの移動をどうしたらよいか? みんなで考えるワークショップ

(第1回:10/26、第2回:11/23、第3回:2/14)

- 南海バスありきの考え方を見直す【校区内路線バス運行に替わる交通サービス】
- ドア to ドアの導入【利用しやすく外出機会を増やす交通サービス】
- 南部リージョンセンターの施設機能の強化【南部地域の拠点】
- 運行車両は小さく、ルートはきめ細やかに
- 通学は小中一貫校のスクールバスを踏まえた検討が必要

ワークショップのご意見
⇒裏面をご覧ください

地域住民の皆さんが特に優先的に必要とするもの…



「高齢者が快適に住み続ける南部のまちづくり」

地域のくらしの移動を どうしたらよいか？ みんなで考えるワークショップ (南横山校区)

① ワークショップのまとめ

路線バスなどの利用実態や地域住民アンケート結果を情報共有し、外出時の課題や地域で住み続けるために必要な公共交通の機能や役割について、各グループで意見交換しました。

各グループの意見では、「家の近くまで来て欲しい」や「バスに替わる交通手段の導入」のほか、「南部リージョンセンター（RC）の拠点づくり」など、様々な意見が出されましたが、みなさん、通院や買物など高齢者が利用しやすい生活交通の確保策は急務であるという意見でした。

項目	Aグループ	Bグループ	Cグループ
各グループの外出時の課題	<ul style="list-style-type: none"> バス停まで遠い（バスが入ってこない地域も） バスの乗り換えが複数あって不便 バス利用は寄り道ばかりで時間がかかる タクシー利用も不便 大野北交差点の渋滞で外環まで出にくい（交差点を曲がれない） 和泉府中駅近くの駐車場にマイカーを停めるにしてもすぐに満車 この先、免許返納したときの移動手段が心配 和泉府中駅までは春木川への接続が便利 	<ul style="list-style-type: none"> 南部の方は特にバス停まで遠い（15分程かかる場合も）荷物あるとき バス利用は寄り道ばかりで時間がかかる（和泉府中駅まで1時間30分） 便数が少なく、出かけた時にバスがない（バスが入らない地域も） 通学（小学校）父鬼16名、側川0名、大野数人 H29のデマンドは良かった（2時間前の予約は使いにくい） オレンジバスを南横山にも 	<ul style="list-style-type: none"> バスの便数が少なく、外出時間の調整が難しい（運賃が高い） バスの乗換えが不便で、乗り降りも大変 バス停が遠く、行きはよいが帰りは疲れて辛い（特に荷物があるとき） 買物、病院などを利用したい時にバスがない（1日かかる） ららぽーと和泉やコストコなど行きたいルートにバスがない バスの種類が多く停留所が分かりにくい（バス交通の整理） 買物しても配達してもらえない店がほぼない 近所に店や病院が少ない（避難所が遠い） 夜遅くは暗くて怖い（冬は路面凍結で外出不可、災害時に動けない） 時間帯により道路が渋滞、町内のスピード超過など危険運転あり
各グループの意見	【 地域で住み続けるために必要な公共交通の機能や役割＜テーマ＞ 】		
	<p>対象者：高齢者、通勤・通学（小中）、高校生、免許返納者 運行タイプ：乗降自由、小回りきく、ドア to ドア、バス停近い方がよい、寄り道を少なく 目的地：学校・駅、病院・スーパー、必要な機能があれば南部 RC 運行頻度：少なくとも1本/時間 運行時間帯：1本/時間、朝（通勤・学）、病院帰り・終電の時間帯 料金：現バス料金より安く、日常利用が可能な設定（100円） 地域・まち：移動販売、ららぽーと和泉との接続 づくり：南部 RC（指定避難所）への公共交通がない</p>	<p>対象者：通勤・通学（小中一貫校）・通院（診療所）、免許返納者 運行タイプ：家の近くまで、南海バスに頼らない方法の検討 オレンジバスのようなサイズで地域内を巡回 目的地：オークワ（納花）、前期高齢者は和泉中央駅から電車利用 運行頻度：多ければ多いほど 運行時間帯：午前の充実、ニーズに合った時間設定 料金：地域内（100～200円）、町会負担もやむなし 地域・まち：南部 RC を魅力ある施設（スーパー等）や拠点に（和泉中央・河内長野方面） づくり：南部 RC への公共交通がない（イベント、催し、避難所）</p>	<p>対象者：高齢者、学生、免許返納者、障がい者 運行タイプ：家や目的地の近くまで、自宅の近くにバス停、バスの小型化、すぐ使えるタクシー、町内専用のバス 目的地：オークワ（納花）、府中病院、和泉中央駅 運行頻度：3回/週（買物）、2回/月（通院） 運行時間帯：朝・昼前（通院）、朝夕（通勤） 料金：300円/回、高齢者（65歳以上）半額 地域・まち：南部 RC（レストラン、ショッピングセンター等） づくり：移動販売車、近くに避難所（一次避難先に屋根無し）</p>
各グループのまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ●<u>ドア to ドア型のデマンド交通があれば</u>（2時間前の予約は不便） ●車両はオレンジバスのサイズで家の近くまで来て欲しい ●<u>南部 RC を拠点に施設機能の強化</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ●<u>南海バスありきの考え方を見直す</u> ●運行車両は小さく、ルートはきめ細やかに ●町会負担もやむなし ●<u>通学は小中一貫校もあり検討が必要</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ●スーパーや病院に協力してもらい専用バス等があれば（市補助） ●<u>ドア to ドア</u>で目的地まで行く手段があれば（予約も簡単がよい）
ワークショップの様子	